

黙示録5章「子羊に渡される力と権威」

1A 巻物を受け取る子羊 1-7

1B 封印を解くのにふさわしい者 1-3

2B 屠られた姿の子羊 4-7

2A 子羊への礼拝賛美 8-14

1B 聖徒たちの歌 8-10

2B 御使いと万物の叫び声 11-14

本文

黙示録 5 章を開いてください。私たちは、先週、4 章から、「この後、必ず起こること(1 節)」について見始めています。それは、主が、今あること、すなわち教会の時代の後に起こることについて、ヨハネに示し始めたからです。天に開かれた門があり、そこから御霊によって彼を引き上げました。そして、ヨハネが見たものが、栄光の神の王座だったのです。そこで、24 人の長老がおり、すぐ近くには四つの生き物がいました。そして、絶えず賛美して、礼拝しているのです。

すべての主は神であり、この方がすべてを支配されています。ところが、地上はそのようになっていません。アダムが罪を犯して、それから悪魔が地上を支配するようになりました。そこで、神が、ご自分のところに、この世界を奪還する働きを始められます。それが、「贖い」と呼ばれます。主が、エジプトで奴隷となっていたイスラエルの子らを連れ出し、ご自分の民であることを宣言されたように、今、全世界からご自分の民を連れ出し、そして世界をご自分の正義で裁かれます。その贖いを可能にするのは、イエス・キリストが血を流して死なれ、三日目によみがえられたという勝利です。

1A 巻物を受け取る子羊 1-7

1B 封印を解くのにふさわしい者 1-3

¹ また私は、御座に着いておられる方の右の手に巻物を見た。それは内側にも外側にも字が書かれていて、七つの封印で封じられていた。

神ご自身が、右手に巻物を持っておられます。右は権威を示しています。そして、巻物には字が書かれています。そこに何が書かれているのか？6 章以降で、封印が解かれて行きますが、数々の災いです。ゼカリヤは、飛んでいる巻物を見ました。十戒に違反した呪いが書かれているのです。「5:3 これは全地の面に出て行くのろいだ。盗む者はみな、一方の面に照らし合わせて取り除かれ、また、偽って誓う者はみな、もう一方の面に照らし合わせて取り除かれる。」

巻物が、七つの封印で封じられています。封印は、蠟などを垂らして印とするもので、後で「封

印を解く」という表現が出て来ますが、日本の巻き物のような紐ではありません。蠟を垂らして、それが、手紙に封をする糊のような働きをしていて、巻き物を綴じます。そして蠟がまだ固まらないうちに、指輪にある印を押すことによって、その権利者を明らかにします。

これが七つあります。神の完全数です。七つの封印を、イエスが一つ一つ解かれる幻が6章から始まります。第七の封印が解かれると、今度は七人の御使いによるラツパがあります。そして第七のラツパが吹き鳴らされると、七人の天使による七つの鉢による災いが始まります。七による災いで、その七つ目においてさらに七つの災い、さらにその七番目の災いで、七つの災いが下るといことです。これは、神のご栄光を表す完全な裁きを示しています。これと似たような神の裁きが、過去にありました。エリコに対する神の聖絶です。ヨシュアたちは、エリコの周囲を一日に一周し、それを六日行ない、七日目は七周しました。

これまで巻き物が封じられていたのですが、これから解かれます。黙示録の巻物は、ダニエル書の巻物の続きと言って良いかもしれません。ダニエルは、御使いから、ペルシアから始まり、ギリシア、そして終わりの時の世界戦争について長い預言を聞きました。そして、イスラエルが最後に滅ぼされそうになるが救われて、多くの者を義とした者が星のように輝くと預言した後に、こう言いました。「12:4 ダニエルよ。あなたは終わりの時まで、このことばを秘めておき、この書を封じておけ。多くの者は知識を増そうと捜し回る。」けれども、黙示録は、その封じられた巻物を開いたことを書き記しているのです。

このことを鑑みて、イエスが弟子たちに言われたことを聞くと、とても味わい深いものになります。「マタイ 13:16-17 しかし、あなたがたの目は見ているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。17 まことに、あなたがたに言います。多くの預言者や義人たちが、あなたがたが見ているものを見たいと切に願ったのに、見られず、あなたがたが聞いていることを聞きたいと切に願ったのに、聞けませんでした。」この啓示が、私たちにも御霊によって与えられています。

² また私は、一人の強い御使いが「巻物を開き、封印を解くのにふさわしい者はだれか」と大声で告げているのを見た。

「強い御使い」が出て来ました。黙示録には、何度か、強い天使が出てきて、緊急性のある、重要な神の御告げを告げるのに用いられます。

³ しかし、天でも地でも地の下でも、だれ一人その巻物を開くことのできる者、見ることのできる者はいなかった。⁴ 私は激しく泣いた。その巻物を開くにも、見るにも、ふさわしい者がだれも見つからなかったからである。

ヨハネが泣いています。むせび泣いています。その彼の思いについて、午前礼拝でしっかりお話ししました、ぜひ後で聞いてください。それ以外のことを話します。

歴史の中で、人々は何とかして、この悪くなっている世を建て直したいと願ってきました。ダニエル書では、バビロン、ペルシア、ギリシア、そしてローマが世界帝国として台頭しますが、その度に、時の指導者は、「圧政から私は世を救うのだ」と訴えてきました。そして今に至るまで、そうです。そして世直しをするという権力者が出れば、その後がもっとひどい状態になっているのが、常になっています。近代は、ヒトラーがそれをしました。自らを「第三帝国」としましたが、その後、世界がどれだけ悲惨になったかは、説明する必要がありません。そして共産主義があります。ナチスよりも、共産主義は人々を魅了してきました。今も、文化的にこの思想が浸透しています。しかし、その結果、どんな悲惨なことが起こっているかは、あまりにも明らかです。

そして終わりの日に、キリストに取って代わる人物が、世直しをするということで現れます。世界が混乱し、不安定になればそれだけ、人々は救世主のような人物を求めます。そして現れて、人々に受け入れられ、賛美されるのが、荒らす忌まわしいものです。世界に荒廃をもたらさず人物、獣です。今、この不法の秘密が激しく働いています。

2B 屠られた姿の子羊 4-7

⁵すると、長老の一人が私に言った。「泣いてはいけません。ご覧なさい。ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利したので、彼がその巻物を開き、七つの封印を解くことができます。」

二十四人の長老の一人が、ヨハネに語ります。だれ一人として、世の贖いを成し遂げる人はいないが、ただ一人おられるのだ。それが、「ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利した」とのことです。これは、もちろんキリスト・イエスのことです。

主は、世を救う方として、初めに、ヤコブの十二人の息子の一人、ユダから出る王が救うことを教えられました。間もなく世を去るヤコブが、力を振り絞って、息子たちのために預言をしました。終わりの日の預言です。ユダに対して、こう言いました。「創世 49:9-10 ユダは獅子の子。わが子よ、おまえは獲物によって成長する。雄獅子のように、雌獅子のように、うずくまり、身を伏せる。だれがこれを起こせるだろうか。10 王権はユダを離れず、王笏はその足の間を離れない。ついには彼がシロに来て、諸国の民は彼に従う。」ここの「シロ」はメシアのことです。王となるものが来て、そこからメシアが現れる、世の救い主が来られるということです。

そして、「ダビデの根」ですが、イザヤは、エッセイの根から出てきた新芽として言い表します。「11:1-2 エッセイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。2 その上に【主】の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、思慮と力の霊、【主】を恐れる、知識の霊である。」御霊に

満たされて主は、公生涯を始められました。「3 この方は【主】を恐れることを喜びとし、その目の見るところによってさばかず、その耳の聞くところによって判決を下さず、4 正義をもって弱い者をさばき、公正をもって地の貧しい者のために判決を下す。口のむちで地を打ち、唇の息で悪しき者を殺す。5 正義がその腰の帯となり、真実がその胸の帯となる。」確かに、この方が世界を贖われ、神に世界を買い戻されるのです。

^{6a} また私は、御座と四つの生き物の真ん中、長老たちの真ん中に、屠られた姿で子羊が立っているのを見た。

「屠られた姿」で「子羊」が現れています。四つの生き物と長老たちの真ん中に立っておられて、「見た」とヨハネ入っています。全ての注意と注目が、この方に向けられています。

ユダの獅子、ダビデの根である方が、驚くことに、屠られた子羊でありました。この衝撃を、イザヤは預言しています。52 章の最後のところで、王たちが、この栄光と力をまとった方が、「顔だけは損なわれて人のようではなく、その姿も人の子らとは違っていた。」とあります(14 節)。そして、地上に残されているイスラエルの人々が、驚きます。この方が、自分たちの咎のゆえに打ち傷を受けられ、自分たちの罪のために、罪人として裁かれ、死にました。けれども、よみがえられます。そして、10 節にこう書いてあります。「しかし、彼を砕いて病を負わせることは【主】のみこころであった。彼が自分のいのちを代償のささげ物とするなら、末長く子孫を見ることができ、【主】のみこころは彼によって成し遂げられる。」世を救う方ご自身が、代償のささげ物となられたのです。

どんなに人が善意をもって世直しをしようと思っても、かえって悲惨になるのは、とりもなおさず人に罪があるからです。自分で自分を救おうとすると、かえって失われると主は言われましたが、まさに歴史においても、世界においても、その繰り返しでした。アダムが罪を犯して、それが世界に広がり、それで死がもたらされたのです。私たちが世直しをしたければ、それはすでに、私たちの罪のために血を流され、罪を取り除かれたイエスを、人々が主としていくべく、この方を宣べ伝え、証していくことです。

子羊について、これは、アベルが子羊を献げたところから始まり、モーセの時に、主が、過越の子羊として定められています。家の中で子羊をほふり、その血を家の門柱と鴨居につけます。そして、エジプトに下る災いとその家を過ぎ越します。そして、過越のいけにえだけでなく、罪の赦しのための子羊のいけにえは、数多く書かれています。それで、バプテスマのヨハネは、イエス様を見たら、「見よ、世の罪を取り除く神の子羊」と言いました(ヨハネ 1:29)。

これから、黙示録の最後、天のエルサレムに至るまで、主は「子羊」として登場します。これは、この方が罪のための屠られたことが、永遠の救いをもたらしていることを表します。私たちは、十

十字架から卒業することはないのです。しばしば、多くの方が間違いをします。十字架を卒業できると思っているのです。ある人は、バプテスマを受けたら目標に到達したと思います。いいえ、目標ではなく出発です。卒業式ではなく、入学式です。そして、自分が十字架にところに行かなければいけないことを惨めに思い、いつか、そうでなくなることを願います。いいえ、そんな日は来ません。もし来たとしたら、それはサタンの惑わしです。自分が死んでも、天に入っても、新天新地になっても、自分は、キリストの血によって罪赦された者であり、永遠の愛を受けていく存在なのです。

そして子羊が、「立っている」ことにも注目してください。イエスが昇天されましたが、そのときに父なる神の右の座に着座されました。座っておられました。それは、ヘブル書によると、人々が救われるために必要なことを、イエスさまがただ一度、十字架の上に成し遂げられたので、他の救いのためにすることはなくなったからです。救いのみわざが完成し、座っておられるのです。けれども、詩篇 110 篇 1 節に書かれてあるとおり、父なる神は御子に対して、「あなたはわたしの右の座に着いていなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで。」と言われました。敵を足台とする、つまり、世界がキリストのものとなり、悪魔を足台とするため、ご自身が地上に戻って来られませぬ。その時、キリストは右の座から立ちます。これから、地上に戻られるために立たれたのです。

^{6b} それは七つの角と七つの目を持っていた。その目は、全地に遣わされた神の七つの御霊であった。

聖書における「角」は、権威や力を表しています。七は神の完全数ですから、七つの角は、主イエスが、父なる神からの全ての権威が与えられている姿です。そして「七つの目」は、ここにあるとおり神の御霊です。4 章にも、御座の前に、火のついた七つのともしびがあり、それは御霊でした。御父と御子の権威によって、御霊は世界に遣わされました。

ゼカリヤ書にて、祭司ヨシュアに対する預言がありますが、それは後に来る王であり、かつ祭司であるメシアの姿を表しています。そしてメシアである石には、七つの目があることが預言されています。「3:9 見よ、わたしがヨシュアの前に置いた石を。一つの石の上には、七つの目がある。見よ、わたしはそれに文字を彫る。——万軍の【主】のことば——一日のうちに、わたしはその地の咎を取り除く。」主は御霊によって、今、私たちにおられます。

⁷ 子羊は来て、御座に着いておられる方の右の手から巻物を受け取った。

ついに、子羊が巻物を受け取られました！この情景は、ダニエル書 7 章に預言されていました。「7:13-14 私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲とともに来られた。その方は『年を経た方』のもとに進み、その前に導かれた。14 この方に、主権と栄誉と国が与えられ、諸民族、諸国民、諸言語の者たちはみな、この方に仕えることになった。その主権は永遠の

主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。」これは、世界がキリストのもの、キリストの御国になることを意味していました。それで、一斉に天において賛美が始まります。

2A 子羊への礼拝賛美 8-14

1B 聖徒たちの歌 8-10

⁸ 巻物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老たちは子羊の前にひれ伏した。彼らはそれぞれ、豎琴と、香に満ちた金の鉢を持っていた。香は聖徒たちの祈りであった。

四つの生き物と二十四人の長老が、子羊の前にひれ伏します。長老たちは「豎琴」を持ちます。黙示録において、二度、天において豎琴が弾かれているのを見ます。詩篇の中に賛美において、豎琴をひいていました。それは、天においてこのように、豎琴を弾いているのを、地上において実践していたのです。

そして、「香に満ちた金の鉢」を持っています。地上の幕屋において、金の香壇が聖所の中にあつたことを思い出してください。大祭司は、その香を契約の箱の上で覆いますが、地上の幕屋は天にあるものの模型であります。「ヘブル 8:5 この祭司たちは、天にあるものの写しと影に仕えています。それは、モーセが幕屋を設営しようとしたときに、御告げを受けたとおりのものです。神は、「よく注意して、山であなたに示された型どおりに、すべてのものを作らなければならない」と言われました。」地上で大祭司が香を焚くのですが、それは天における香を表していました。

そしてこの香は、「聖徒たちの祈り」でした。「詩 141:2 私の祈りが御前への香として手を上げる祈りがタバのささげ物として立ち上りますように。」香が、至聖所の契約の箱の間にまで行くというのは、祈りが神に届けられている姿を示していたのです。そして、これが、子羊が巻物を受け取られたことが、聖徒たちの祈りの答えであることを示しています。イエスが私たちにこう祈りなさいと言われましたね。「マタ 6:10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも行われますように。」世界中で、二千年祈られてきたこの祈りが、神の前に届けられています。そして、この地上に神の国が立てられる祈りが、今聞かれています。

⁹ 彼らは新しい歌を歌った。「あなたは、巻物を受け取り、封印を解くのにふさわしい方です。あなたは屠られて、すべての部族、言語、民族、国民の中から、あなたの血によって人々を神のために贖い、¹⁰ 私たちの神のために、彼らを王国とし、祭司とされました。彼らは地を治めるのです。」

ここの「彼ら」は、聖徒たちです。四つの生き物、そして二十四人の長老たちがひれ伏している時、聖徒たちがこの新しい歌を歌ったのです。「新しい歌」とは、新しい命、新たな交わりを表しています。新しい契約の中に入っているのですから、新しい歌なのです。

そしてここに、「人々を神のために贖い」という言葉と、「彼らを王国とし」また「彼らは地を治めるのです」とありますが、ギリシア語の写本のほとんどすべては、この「彼ら」や「人々」は、「私たち」になっています。そこで読み替えてみます。「あなたは屠られて、すべての部族、言語、民族、国民の中から、あなたの血によって人々(私たち)を神のために贖い、¹⁰ 私たちの神のために、彼ら(私たち)を王国とし、祭司とされました。彼ら(私たち)は地を治めるのです。」

この歌は明らかに、天にいる教会の歌であります！つまり、これは、天に引き上げられた教会であり、私たちがここにいるということです。私たちは子羊の血によって贖われました。ペテロは第一の手紙で、「1:18 ご存じのように、あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、」と語っています。そして黙示録1章にあるとおり、イエス・キリストが、「1:6 また、ご自分の父である神のために、私たちを王国とし、祭司としてくださった方」です。今、子羊が七つの封印のある巻き物を受け取っているその時に、天に教会があるということなのです。

イエスが世界を贖われるのは、そこにご自身が愛された宝である教会があるからです。これを、午前礼拝でも、じっくりと見ました。神がキリストにあって、世界の基が置かれる前から選んでくださったのです。そしてその宝を得るために、全財産すなわち、ご自分のいのちを代価にして、全世界を買い戻してくださいました。これからイエスが地上に再臨し、神の国を建てられます。それほど、私たちはキリストにあって、高価で尊い存在であり、愛されているのです。

そして、ここに、「すべての部族、言語、民族、国民の中から」と強調されています。これが、黙示録で繰り返し出て来る言い回しです。アブラハムに対して、神は、すべての部族が彼によって祝福されると言われました。それで、アブラハムの子孫のイスラエルを通して、異邦人が近づき、特にイスラエルの子孫キリストによってそれがかなえられることが預言されています。イザヤの預言には、このことが鮮明です。そして、イエスは失われたイスラエルの羊のために来られました。けれども、シドンの地の女の娘から悪霊を追い出すなど、異邦人にも働きかけられました。そして、復活されてから、この福音をもって全ての国民を弟子としなさい、と主は言われました。

それで、「すべての部族、言語、民族、国民」と歌っているのです。私たちは、日本に住んでいるので、この意味合いがよく分らないかもしれません。同じ国民が同じ民族とは限らないのです。同じ国民が、同じ言語を話しているか、必ずしもそうではないのです。イエス様の十字架の罪状書きが、三つの言語であったことを思い出してください。ヘブル語、ギリシア語、そしてラテン語です(ヨハネ 19:20)。民族的にはヘブル人です。けれども、話している共通言語は、ギリシア語でした。そしてローマ帝国ですから、ローマの言葉、ラテン語もあります。ですから、民族的にヘブル人でも、ヘブル語を使っているわけではないし、またヘブル人の国でもないのです。だから、ただすべての国民といわず、「すべての部族、言語、民族、国民」なのです。どの人も漏らすことなく、福音が宣

べ伝えられた証しです。

そして、私たちはキリストの流される血によって、贖われ、「一つの神の民」となっています。これがすごいです。私たちはどんなに異なる民族、言語、国であっても、すべての人がキリストを必要としています。そして、キリストの血によって罪から解放されたら、一つの民となります。昨年、カルバリーチャペルのアジア宣教大会では、カンボジア人の若い女性が、カンボジアの踊りをもって、イエス様の復活を歌い、踊っていました。元々は仏教に根差した踊りでしょう、しかし、キリストにあって贖われた踊りと言っていていいと思います。そのような伝統文化、宗教も、贖われれば、主の栄光のためになるのです。

そして、「地を治める」と歌っています。七つの教会に、勝利者が地を治める約束をイエス様が与えておられました。ティアティラにある教会に対して、こう言われました。「2:26-27 勝利を得る者、最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与える。27 彼は鉄の杖で彼らを牧する。土の器を砕くように。」このことが、20章の千年間の統治で、また21-22章の新天新地で、実現します。キリストを信じた者は、神の国を相続するのです。

2B 御使いと万物の叫び声 11-14

¹¹ また私は見た。そして御座と生き物と長老たちの周りに、多くの御使いたちの声を聞いた。その数は万の数万倍、千の数千倍であった。

主に愛され、贖われた者たちが天において、その救いをほめたたえている時に、そのことを共に喜んでいるのが、ここにある無数の御使いです。一人の人が悔い改めた時の、彼らの喜びは天においても、ひとたまりもありません。「ルカ 15:10 あなたがたに言います。それと同じように、一人の罪人が悔い改めるなら、神の御使いたちの前には喜びがあるのです。」御使いたちは、私たちが福音によって救われることに非常な関心を寄せています。「1ペテロ 1:12b そして彼らが調べたことが今や、天から遣わされた聖霊により福音を語った人々を通して、あなたがたに告げ知らされたのです。御使いたちもそれをはっきり見たいと願っています。」

そして、ヘブル書の著者は、私たちが天のエルサレムに近づいており、また無数の御使いにも近づいていることを話していました。「ヘブル 12:22 しかし、あなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都である天上のエルサレム、無数の御使いたちの喜びの集い」とあります。

¹² 彼らは大声で言った。「屠られた子羊は、力と富と知恵と勢いと誉れと栄光と賛美を受けるにふさわしい方です。」

彼らの声は、屠られた子羊に向けてのもので、「力と富と知恵と勢いと誉れと栄光と賛美」と

言っています。父なる神に対してと同等の賛美です。神と子羊が一体になっています。

¹³ また私は、天と地と地の下と海にいるすべての造られたもの、それらの中にあるすべてのものがこう言うのを聞いた。「御座に着いておられる方と子羊に、賛美と誉れと栄光と力が世々限りなくあるように。」

まず、贖われた教会が主を賛美し、次に天において御使いが賛美し、そして今、他のすべての被造物が賛美しています。神の民が贖われたら、そのまま被造物も贖われます。畑の中の宝の喩えにあったように、宝を得るためでしたが、世界を贖われたのです。「ローマ 8:21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります。」そして、天と地だけでなく、地の下、海のまですべて及びます。被造物のあらゆるものであります。「ピリ 2:10-11 それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、11 すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。」

¹⁴ すると、四つの生き物は「アーメン」と言い、長老たちはひれ伏して礼拝した。

賛美は、四つの生き物とに帰ってきて、「アーメン」と言っています。ここは一回だけ言ったのではなく、正確には「言っていた」と訳すべきところです。つまり、何回もアーメン、アーメン、と言い続けていたことになります。そして生き物に呼応して、長老たちがひれ伏し、礼拝しています。

私たち教会が今、どのようなところに置かれているか、お分かりになったでしょうか？主が戻ってこられるのが近いです。地は叫んでいます。罪や不法が積み重なって叫んでいます。しかし、その中で、キリストの血によって、私たちはそれぞれのところから贖い出されました。そして、一つの神に民にされています。そして御霊の初穂として、先んじて、天の賛美をこの地上で歌っているのです。そして、教会が天に引き上げられて、主は次に、この地上に対して災いを下します。

私たちはこの葛藤の中に生きています。御国が来ますように、というのは、そうした葛藤の中での祈りです。まだ目に見えないものを信じて、希望を抱いています。そして忍耐するのです。